



●キンベル美術館（米・テキサス州）

20世紀最後の巨匠と言われるルイス・カーンの設計（1972年）。構造・意匠・素材を高度に融合させ、「光をテーマ」とした美術館です。

特徴は、蒲鉾型のアーチ天井で、頂部の細長い天窗から注ぐ自然光を翼状のアルミ反射板が受け、丸い天井に銀色の柔らかな光として拡散し、重要な照明の役割を担っています。

また“soft gray with lavender tones”と表現したコンクリートの色合いは、室内を構成するトラバーチンの石材と調和するよう現地で試行錯誤を重ねたものです。

キンベル美術館は、建築そのものが美しい彫刻作品のように乾いたテキサスの大地に佇んでいます。（幹事：鈴木章子）



●日本の伝統的な色名・藤色

藤は日本の固有種で、古くから観賞用として庭園などにも植栽されていた。藤波とは藤の房状の長い花が波打つ様に咲く状態を指している。

藤色の変相色名には若紫、藤紫、藍藤、紅藤、白藤、藤納戸、藤鼠などがある。紫は禁色ゆえに濃色、薄色とも呼ばれた。

古典には、「藤衣」という表現があるが、これは藤の皮の繊維で織った古代の布で、藤色とは関係がない。

紫式部による源氏物語は、「桐壺」の帖に始まる。時の天皇桐壺帝は、桐壺の更衣を愛し、光源氏が誕生する。桐壺の更衣はやがて病死するが、帝の悲しみを見かねた周囲が、桐壺の更衣に瓜二つの藤壺の更衣を入内させ、後の冷泉帝を出産したので中宮に据える。光源氏は母の面影を求め藤壺を慕う。冷泉帝は実は光源氏と藤壺との不義の子である。

御所の内裏後宮には、桐壺、梨壺、梅壺、藤壺などがあり、壺とは後宮の庭の名で、桐、藤ともに薄紫の花をつける。

「恋しけば 形見にせむと わが屋戸に
植えし藤波 いま咲にけり」
など万葉集には二十首以上も藤を歌った和歌が見られる。（永田泰弘）

●大辞典ひろい読み 91 ーこ

五色揚げ：ごしきあげ。いろいろな野菜を油で揚げたもの。

五色海老：ごしきえび。イセエビ科の甲殻類。

五色木：ごしきぎ。ニシキギの別名。

五色さざえ：コシダカサザエの別名。

五色青海鸚哥：ごしきせいがいいンコ。インコ科の鳥。全長28センチ位。背と尾・翼が緑、くちばしと胸が赤、腹が紫、頭が青の派手な色をしている。オーストラリアに分布。

五色素麺：卵・ユズ・抹茶などを入れて五色に染め分けたそうめん。伊予の名産。

五色茶漬け：江戸末期、五種類の菜と香のものを添えて出した茶漬け飯。

五色鳥：ごしきどり。キツツキ目ゴシキドリ科の鳥。全長約20センチ。くちばしが太く全体に緑色で、額・のどは・黄、頭・顔は青、背の一部と目先は赤い羽色をしている。台湾に分布。ゴシキドリ科の総称。

五色臈：ごしきなます。大根・椎茸・油揚げなどを彩よく取合わせ、三杯酢であえたもの。

五色の糸：青・黄・赤・白・黒の五種の色をした糸。念仏者が臨終の時に阿弥陀仏の像の手から自分の手に掛け渡した糸。この糸によって極楽浄土に導かれるとされた。

＊大辞泉：小学館発行国語辞典（永田泰弘）